

原動機部 12連覇

Div-1 高校生部門 1~3位独占

2024年(令和6年) 8月1日 木曜日

南信州新聞

高校生部門で12連覇達成

Ene-1 SUZUKA Challenge



12連覇を果たした電動機部

飯田OIDE長姫高原動機部

飯田OIDE長姫高校の原動機部が7月28日に三重県鈴鹿市で開かれた電池自動車と電池二輪車によるタイムレース「Ene-1 スカチャレンジ」の1部門で12連覇を達成した。製作材料制限なし(Div-1)のカテゴリーで高校1~3位を獲得した。

鈴鹿サーキットで、充電式単3乾電池40本を動力源とする車両と二輪車の2大会に臨んだ。今年は大規模な競技規定・規則の変更があり、車両は材料、二輪車は競技形式が変わった。75台(高校31台)がエントリーしたDiv-1には3台が出場し、高校1位(総合3

位)2位(6位)、3位(7位)に輝いた。

チーム「WISDOMα」のドライバードライバーで部長の3年原煌弥さん(17)は「今までにない接戦になり、タイムやメンタルで余裕がなかった中で優勝できたのは良かった」と振り返り、「前日の試走データを本番でうまくフィードバックできたことが勝因だ」と語った。

鈴鹿初挑戦の「WISDOM II」ドライバードライバー、1年小池永真さん(16)は「速度が速い大会で緊張もあったが、仲間が声を掛けて励ましてくれた。完走ができてホッとしている」。「WISDOM」を操った3年篠田恵吹さん(18)は「仲間と相談しながらセットアップし本番に臨んだ。チームワークでつかんだ3位」と笑みを浮かべた。

二輪車大会には1チームが出場。45台(高校17台)中、高校生部門2位(総合6位)に入った。総合1位だった昨年からの連覇はならなかったが、ドライバードライバーの3年熊谷颯太さん(17)は「調整の部分で難しかった。全力で臨めたので悔いはない」と話した。

3年生は同大会を最後に引退。13連覇を目指す新部長の2年久保田洋太さん(同)は「受け継いできた技術や知識を基に、自分たちの要素も加え、さらに成長させたい」と意気込んだ。初戦は9月15日に栃木県で開かれる「Ene-1モテギGP」となる。

掲載記事提供: (株)南信州新聞社



商業科3年生

丸山公民館工作イベントを企画・運営

2024年(令和6年) 8月2日 金曜日

南信州新聞



高校生とキーホルダーを作る小学生

丸山公民館

高校生企画に夢中

子ども
寺子屋

キーホルダーを手作り

飯田市丸山公民館 高校生企画の工作イベントは7月29〜31日、夏休み中の小学生を対象に子ども寺子屋を開いた。30日には高

校生企画の工作イベントがあり、子どもたちがプラ板キーホルダー作りを楽しんだ。

子ども寺子屋は、夏休み中の子どもの居場所づくりや規則正しい生活の支援などを目的に毎年開いている。今年も31人の小学生が参加し、多彩な企画や宿題の時間に取り組んでいる。30日のプラ板キーホルダー作りは、丸山地区で地域人教育に取り組んでいる飯田OIDE長姫高校の3年生6人が企画、運営を担当した。子どもたちは高校生から教わりながらプラスチックの板にキャラクターなどの絵を自由に描き、オ

ーブンで焼き上げてキーホルダーを完成させた。

丸山小学校5年の中田向日葵さん(10)はイチゴやトマトの絵を描いた。完成したキーホルダーを「かわいい」と見つめ「ランドセルにつけたい」と話した。同高校商業科3年の金田拓海さん(17)は「子どもたちが夢中に楽しんでくれてよかった。小学生の子どもと関わる機会が少ないので自分も楽しめた」と語った。

合同高校説明会開催

本校生も参画協力

2024年(令和6年) 8月7日 水曜日

南信州新聞

現役生が魅力伝える

高校5校の合同説明会

高校生や地元出身の大学生が企画、運営する「合同高校説明会」が4日、飯田市座光寺のエス・バードであった。飯田実行委代表は喬木下伊那と上伊那地域の5校の高校生ら13

人が実行委をつくり、説明役を担当。勉強や部活動など多彩な視点で、学校の魅力を率直に伝えた。実行委代表は喬木村出身の姉妹で、いずれも都内の大学1

年生の小池杏奈さん(19)と凜奈さん(同)。志望校について知る機会が少なかった経験から昨年に飯田市で初めて企画し、100人を迎えた。

好評だったことから、今回は開催地を拡大。飯田を皮切りに、松本市と上田市、オンラインでも開く。県教委が協力し、会場使用やチラシ印刷、開催周知などを担った。

この日は飯田、飯田風越、飯田OIDE長姫、飯田女子、伊那北の生徒が参加。それぞれのブースで、訪れた中学生や家族に学校を紹介し、勉強、部活動について話した。学校の雰囲気についてざっくりばらんに「リアルな声」を届けたり、緊張している中学生に世間話をして雰囲気をつくったり。OIDE長姫高校1年の長久保愛さん(16)は「自分も新生活に不安があった。実際の声を聞いて少しでも高校選びの参考にしてほしい」と話した。凜奈さんは「偏差値だけでなく、やりたいこととマッチできるよう、一人一人に寄り添うサポートができれば」と話していた。



高校生がリアルな学校生活を伝えた

や家族に学校を紹介し、勉強、部活動に



能登半島地震被災地現地支援に出発

南信州新聞

2024年(令和6年)8月9日 金曜日



出発式に臨む高校生

飯田市社協

被災地での経験今後に

高校生ボラ能登町へ出発

能登半島地震の被災地支援で、飯田市社会福祉協議会(原重一会長)

の「高校生ボランティアワークショップ」の出発式が8日、市勤労者福祉センターで開かれた。飯田、飯田風越、飯田女子、下伊那農業、飯田OIDE長姫の5校から計14人が参加。1泊2日の日程で鳳珠郡能登町を訪れて被災状況を直接聞き、ボランティア活動に当たる。

飯田女子高2年の森岡結衣さん(17)は「被災した人たちがどのような生活を送り、どんなことに困

っているのかを知る良い機会」と語り、同校2年の代田陽織さん(16)は「現地で学んだことをしっかり持ち帰り、友だちなどと共有したい」と話した。

初日は地元の仕事仲間、農家民宿「春蘭の里」を訪ねる。自主的な避難生活が続く春蘭の里では被災直後の避難生活を聞き、住民との交流も予定。被災した家財などの片付け作業にも当たる。

訪問後に事後学習を重ね、12月に予定する市社会福祉大会で活動報告する。

コンピュータ制御部 テックレンジャー 喬木村富田で公演

2024年(令和6年) 8月9日 金曜日

南 信 州 新 聞

喬木村富田青年会

夏休みの思い出に 参加対象を広げ催し

喬木村富田の青少年健全育成事業の一環で「夏の思い出づくり」と題した催しが4日、南部防災センターで開かれた。中山間地の少子化が進む中、参加対象を村南部の大和知、氏乗にも広げ、子どもたちは飯田OIDE長姫高校のコンピュータ制御部員が演じるヒーロー戦隊劇「高校戦隊テックレンジャー」によるヒーローショーを



南部防災センターでヒーローショー

楽しんだ。毎年恒例のイベントで、今年は富田を含めた南部地区の子どもたちに声を掛け、30人ほどの小学生が集まった。巨大風船を膨らませたリカプセルを客席に飛ばしたりする演出に夢中になり、ヒーロー役が登場し悪役とたたかう場面では「頑張れー」と大きな声援が沸き起こった。会場には保護者や地域住民も足を運び、楽しいひとときを過ごしていた。富田青少年健全育成会の福澤学会長(64)は「子どもの数は少なくなるが、毎年楽しみにしている子どももいる。夏の思い出にしてもらえたら」と話していた。

社会基盤工学科生 施工管理技術講習を受講

OIDE 長姫高

技術検定に向け猛勉強

建設業協会が受験準備講習会

県建設業協会飯田支部は19、20の両日、2級土木・建築施工管理技術検定第一次検定に向けた受験準備講習会を飯田OIDE長姫高校で開いた。社会基盤工学科で学ぶ2年生約40人が夏休み中の2日間登校し、検定合格に向けて熱心に取り組み組んだ。

同校の講習会では、名古屋市中区にある東海工業専門学校金山校の成田節雄副校長が講師を務めた。1日6時間の計12時間をかけ、一般土木の専門知識や勤務規則などの法規関連について解説。過去に出題された問題の傾向から、特に重要とされる分野については集中的な講義をした。

会が専門学校と連携協定を結び、県内の技術系高校で資格取得に向けた出前講習会を毎年実施している。

講義を終えた生徒たちに向けては「みんな集中して取り組んでいた。ここからが勝負。あとは君たちの頑張りが問われる」とエール。「多くの人の後押しがあることを忘れないでほしい。



土木・建築施工管理技術検定受験準備講習会

試験に合格すること、自分も周りの人もハッピーな気持ちにしてほしい」と言葉を送った。



飯田OIDE長姫高校電動機部と佐藤市長

原動機部 Ene-1 SUZUKA

12連覇を飯田市長に報告

12連覇を市長に報告

充電式単3乾電池を動力源とする自動車レース「Ene-1 スズカチャレンジ」の製作材料制限なしのカテゴリで高校生部門1位となり、12連覇を達成した飯田OIDE長姫高校電動機部の10人が23日、飯田市役所に佐藤健市長を訪ねた。結果を報告するとともに、次戦への意気込みを語った。大会は7月28日に三重県鈴鹿市の鈴鹿

SUZUKAチャレンジで快挙

サーキットで行われた。レース映像をタブレットで鑑賞した佐藤市長は、トップスピードでコースを疾走するマシンの様子や運転している時の気持ちなどについて興味深そうに生徒に質問した。

また、出場した3台のマシンが地元企業の協力でパーツや部品を更新しながらバージョンアップしたことなど、「チーム飯田」を強調した。佐藤市長は「高校生部門の1〜3位独占はすごいこと。心から敬意を表したい。後輩の皆さんも

引き継いで頑張ってもらいたい」と激励した。報告を終えた原さんは「自分たちの努力を評価してもらえて良かった」と話し、新部長に就いた久保田洋太さん(2年)は「伝統ある部を引き継ぐのは名誉なこと。これまで先輩が培ってきた技術や知識をしっかり受け継いで、チームをまとめていきたい。まずは9月に栃木県である大会で結果を出したい」と決意を語った。

社会基盤工学科・建築学科2年生

行政機関で職場体験を実施



ゼロエネ住宅を見学する生徒

OIDE 長姫高 行政機関の職場を体験 ゼロエネ住宅や建設現場

飯田OIDE長姫高校の建築系学科の生徒が27日、県飯田建設事務所管内で建築に関わる公務員の仕事を体験した。県が取り組む社会資本整備の意義などを学ぶ座学や現地見学のほか、現場視察をしたり、ゼロエネ住宅や県営住宅の管理などを学んだりした。計12人の2年生が参加。社会基盤工学科の4人は道路改築や砂防事業、急傾斜地崩壊対策工事現場などを視察し、建築学科の8人は飯田市大瀬木の県営住宅と豊丘村に完成したゼロエネ住宅を見学した。

県が普及を目指しているゼロエネ住宅を訪ねた生徒たちは、設計者や施工業者から建物の特徴などの説明を受けた。

同校OBで設計した一級建築士・新井優さん(66)は設計図を見せながら「住む人の思いをどう形にするかが私たちの仕事」と説明。「社会の動向や自然環境の変化などにも対応していくので、大変だが非常にやりがいを感じている」と伝えた。

施工した村澤製材の村澤和彦さん(59)も同校のOB。「県産材を多く使用しており、中でも飯田市のスギが中心になっている。地域に目を向けつつ、将来の担い手になってほしい」と呼びかけた。

スギの香りが広がる室内を案内された生徒たちは、先輩が手掛けた住宅に興味津々の様子だった。施主の小木曾利江子さん(52)は「見学を通して」何か将来にヒントになるきっかけになれば」と言葉を送っていた。